



TOEFL Primary® / TOEFL Junior® 導入した理由 一貫教育で前期中等教育課程を担う… 慶應義塾普通部の英語教育

(慶應義塾普通部英語科)

英語試験として国内で広く知られているのが、高校や大学の入学試験や単位認定としても取り入れられ、幅広い年齢層が受験する実用英語技能検定(英検)だ。一方で、英語を母国語としない外国人の英語力を測定する試験として、全世界で用いられているのが TOEFL® である。長いあいだ英検を英語指導に取り入れてきた学校が、グローバル化の気運にともない TOEFL Primary® / TOEFL Junior® への転換に踏み切るケースも増えている。

慶應義塾の一貫教育で前期中等教育課程を担う男子中学校である慶應義塾普通部もそのひとつだ。慶應義塾普通部英語科 跡部智先生に、同校が目指す英語教育、英検から TOEFL® へと移行した狙いについて聞いた。

お互いが学び合う 「半学半教」の気風

—— まず、御校の教育の特徴、育てたい人材像についてお聞かせください。

私どもの学校は、ご承知のように慶應義塾大学までの一貫教育を行っていますので、在学中に受験がありません。高校入試や大学入試といった受験のための学習から離れて、どの科目も基礎をまんべんなく身に付ける

こと、そして学問の本質を探究するということと、将来、実際に役に立つ合理的な思考ができる人間を育成することを目指しています。

英語に関してもしそういった観点で、ただ入試問題の点が取ればいいということではなく、四技能を総合的に学んでいこうという方針です。

慶應義塾にはお互いに切磋琢磨する「半学半教」という考え方があります。半分学んで半分教えるという言葉の通り、お互いに教わったり教えたりという学習共同体のようなクラスコミュニティを構築

しています。先生からの学びだけでなく、生徒同士でお互いに学び合えるような教育を実践しています。



慶應義塾普通部英語科 跡部智先生

TOEFL Primary® / TOEFL Junior® 導入した理由

—— これまで御校で活用されていた英検から、なぜ TOEFL Primary® / TOEFL Junior® に切り替えたのでしょうか。

これは運営上のことになりますが、英検の場合、申し込みベースで費用負担が発生するなど、料金体系の面で学校として実施する場合に限界がでてきたという状況があり、代替テスト導入を検討していました。一方、TOEFL Primary® / TOEFL Junior® は事後請求で、受験者のみの費用負担でリーズナブルな料金体系です。試験の運営面でも、複数日程の授業中に科目を分けて実施が可能等、非常に融通が利きます。同じ TOEFL Primary® / TOEFL Junior® を系列校である慶應中等部も導

入していることも、切り替えに至った要因となりました。

また、TOEFL Primary® / TOEFL Junior® は、学習指導要領に沿った英検や、学習範囲内の定着度を測定する定期テストとは目的が異なり、米国の等身大の学校生活や授業で普段使われている言葉や文法が試験内に使用される、試験範囲のないテストです。出題内容の異なる同じテストを受験しても尺度が同じであるため、いつ受験してもスコアの信頼性が高いことも選択肢にあがった理由のひとつです。最終的に、先ほども述べた生徒の発達段階に応じた内容、受験者の等身大の生活に即している点が導入の決め手となりました。

—— TOEFL Primary® / TOEFL Junior® に期待するのはどんなところでしょうか。

単に合否ではなくスコアやレベルで比較できるので、これから回数を重ねることで自分の英語

運用力の伸びを迫っていけるところは期待しています。

また、本校の生徒には高校入試、大学入試がなく、世の中で言われている英語を勉強する一般的な動機付けがなくなってしまうという面もあります。そんな中で、将来留学したいという目標を持って英語を学ぶ生徒にとっては、こういった試験でスコアアップを目指すことはモチベーションとなるのではないかと考えています。

—— 将来、グローバルに活躍する人材となるための最低限の英語力というのは TOEFL® では測れるというふうにお感じになっていらっしゃるとうとうとどうでしょうか。

そうですね。加えて、グローバルな人材を育てていく以上は世界の方向性と乖離しないようにすべきであり、義務教育、公教育を担うという点においては、世の中のメインストリームに沿ったものである方が良いと思って

ノンネイティブな同世代との交流を

—— 今後の慶應義塾普通部としての英語教育の展望についてお聞かせいただければと思います。

コロナ禍で海外との行き来が停滞していましたが、今年の後半にはそれが再開できればと思っています。普通部では、フィンランドとオーストラリアの学校との交流がありますが、やはり英語で話さざるを得ない環境に飛び込む経験というのは大切です。実際に英語を使う場に身を置くことで、もっと話したいのに話せなかった経験や、相手のことをもっと知りたいと思う気持ち、そういうところから英語を学びたいという意欲や動機付けが出てくるのだと感じています。

もうひとつ、10代ぐらいの子どもたちにとって必要なのは、お互いに母語ではない英語を使

います。

今回 TOEFL Primary® / TOEFL Junior® を選んだ理由のひとつに、本校の英語指導が目指す方向性が大学につながる一貫教育校であることにあります。発達段階に応じたアカデミックな内容を目指しており、それは TOEFL® テストの出題の狙いと同じです。TOEFL Primary® / TOEFL Junior® は、リーディングの本文やリスニングの内容に触れること自体が異文化理解にもなります。こうした方向性の試験は世界のメインストリームであり、これは英語で受講し議論することを目指す生徒にとって、大学入試対策以上の英語学習の動機になると考えています。また、テスト結果は単に合格ではなくスコアやレベルで受験毎に比較ができますので、回数を重ねることで自分の英語運用力の伸びを追っていき、結果のフィードバックで弱点を克服していけるのではないかと考えています。

この他考えられる TOEFL Primary® / TOEFL Junior® のってコミュニケーションをすることで経験です。学校にもネイティブの先生はいますが、あくまでも授業の英語の域でのコミュニケーションです。また、英語を母語とする子とは力量が圧倒的に違うのは否めず、イギリス人のネイティブとコミュニケーションをしたくても、なかなか理解してもらえなかったり相手の発音がわからなかったりすることが多分にあります。

そういう意味で、自分たちと



「ノンネイティブで英語を勉強している同世代との異文化コミュニケーションに意義がある」と跡部先生

具体的な効用は、リスニングが1回しか読まれないのでかなり集中して取り組まなければ得点につながらないことです。聞こえなかったからといって聞き返すことはできませんし、ディレクションもすべて英語であるという点で、たとえば実際の留学生活でのコミュニケーションに近いと考えられます。

即応的に対応できる力というのは、場数を踏んでいく中で獲得していくもの。こういう「慣れ」や「土台づくり」の観点からも、TOEFL Primary® / TOEFL Junior® を受験することは、長期的な目で見たときのメリットとなりうると考えています。大学生や社会人になったときに、試験を通じて培った力が発揮されるのではないかと期待できるからです。

TOEFL® を活用した英語指導を模索

—— TOEFL Primary® / TOEFL Junior® を御校の

同じノンネイティブで英語を勉強している同世代との異文化コミュニケーションというのは、非常に意味があると思っています。英語をとくに学ぶ同じぐらいの世代の子たち同士で、その英語を使っているところでやりとりをすることがいい経験になると思っています。

—— 今の社会情勢を見て、何が起るかわからないという中であって、いろいろと考えて進む中でベストの選択をしていくということが求められます。ただエスケーターに乗って先に進んでいくのではなく、もがきながらそこで得られる力をどんどんつけていくことが普通部の教育ということなのでしょうね。

「社会がどうであろうと、学問の火を絶やすべきではない」と、福澤諭吉先生は戊辰戦争の最中でも授業を行ったと言われています。周りが戦争していよう

英語教育の中でどのように活用されているのでしょうか。

まだ TOEFL Primary® / TOEFL Junior® を実施し1年経っていませんので、これからの英語指導にどう生かしていくかは私たちも議論を重ねているところです。テストを通じて見えてきた生徒たちの英語運用能力や熟達度を、こういった形でふだんの授業に活用していくのがベストか、さまざまな可能性を探っていきたいと思っています。

今年度は2年生と3年生の生徒全員が TOEFL Primary® Step2 を受ける他、全生徒対象に年3回、学期に1回、生徒が受けたいたいタイミングで受験出来るよう希望者受験を実施する事が決まりました。また、希望者受験では、Step1、Step2、Junior から生徒が選択出来る様に3タイプ選択制にします。今後は実際にテストを受けてみた子どもたちの反応や手ごたえについてもよくヒアリングして、より効果的で意義のあるものにしていきたいと思っています。

が何をしているようが、学生の自分は学問なのだから、抜かりなくしっかりやりなさいという、揺るぎない精神です。時代がどうなろうと、マイナスなことが起きようと、それをプラスの方向に考え方をもっていつて、来るべき日のために鍛錬は怠らないこと。それこそが慶應義塾を貫く教えです。そういう考え方ができる人材を育てていきたいと思っています。

—— ありがとうございます。

「どんな場においても自分のやりたいことを実現させるという信念、それに向かって努力できるということが大事であって、英語はその下地のようなもの。英語を学ぶことを通じて、羽ばたくための土台となる自信をつけてほしい」と熱く語ってくれた跡部先生。生徒たちが TOEFL Primary® / TOEFL Junior® に果敢に挑戦することが、将来への試金石となってほしい……そんな思いを感じ取る事ができたインタビューだった。